



バンビ通信

No.16 令和6年1月



今年もどうぞよろしくお願ひし致します

新年早々令和6年能登半島地震により、日本中が不安と悲しみに包まれました。

ご逝去された方々のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた方がたに一日も早く日常が戻りますように、心からお祈り申し上げたいと思います。



10月から12月までの利用状況

診断名の多い順から

- 10月 急性上気道炎 骨折 感染性胃腸炎 気管支炎 腸炎
- 11月 急性上気道炎 気管支炎 胃腸炎 下痢 骨折 てんかん
- 12月 急性上気道炎 気管支炎 アデノウイルス感染症（隔離不要期）など



「アデノウイルス」といっても、単に「アデノウイルス」と呼ばれるものや「プール熱」そして「流行性結膜炎」と様々あります。

軽症で済んだお子様、続けて2回かかられたお子様、中には、肺炎になり、入院されたお子様もいらっしゃいました。

お子様も保護者の方も大変だったと思います。

バンビは、感染症の時の利用は制限がありますので、ご利用していただいた人数は少ないのですが、区内の病児保育室では、近年にないアデノウイルスの流行により、保育室の割り振りなどの対応に苦慮された、というお話を伺いました。

バンビのご利用について

定員：一日4名から**5名**になりました。

開室：月曜から土曜8時から18時まで（祝日除く）

利用料：一日2000円

給食（昼食・おやつ）希望の方
別途380円

※離乳食・ミルクやアレルギー食はご持参をお願いいたします。

予約：電話にて前日または当日9時半まで

体調のすぐれない時、回復期にバンビをご利用ください

上気道炎症状や消化器症状等のある時は

- ① 「ご本人やご家族が新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスなどでない時」
- ② 「当日からの発熱でない時」
- ③ 医師の診察により、「病後児保育室」適用＝「他のお子様と一緒に過ごして良い時」＝「隔離の必要がない時」にご利用いただいております。

☆お子様の体調や病気の種類、病期により、「病児保育室」と「病後児保育室」を上手に使い分けしていただけると良いかと思われまふ。ご理解とご協力をお願い致します。

ナオミ保育園病後児保育室バンビ

住所：世田谷区等々力4-13-10
大井町線尾山台駅から3、4分

電話：03-3701-8311



子どもの肌はデリケート
スキンケアをていねいに
しましょう

子どもの肌の特徴

- ① **乾燥しやすい**
みずみずしく見える子どもの肌ですが、大人よりもずっと薄いため乾燥しやすいのです。
- ② **荒れたり、かぶれたりしやすい**
皮脂の分泌量も少ないため、**バリア機能も低く**、汚れや汗などの刺激ですぐに荒れたり、かぶれたりすることもあります。
- ③ **アレルギーを発症しやすい**
皮膚の荒れ、湿疹から、アレルギーが侵入することで、食物アレルギーを発症することがあります。

乳児湿疹と食物アレルギー

① 赤ちゃんの肌はバリア機能が低く、**皮膚からのアレルギーの侵入が、アレルギーの発症リスクになることがわかってきました。**

② **初めての食品が口から体内に入る（食べる）前に、皮膚から吸収してしまうことにより、アレルギーを起こすことがあるということです。**

③ ②の理由で、**現在では、卵や乳の離乳時期を遅らせたり、妊娠中や授乳期も控えたりすることは必要ない**とされています。

☆湿疹は小児科を受診
しましょう



秋冬のスキンケア 3か条

秋冬の乾燥した空気は、デリケートな子どもの肌には大敵。放っておくと、かゆかゆ、かさかさになってしまいます。「こまめに、丁寧に」日常的なケアをしてあげてください。

① たっぶり保湿

保湿剤は、お風呂上がりには必ず塗りましょう。肌に湿り気があるうちに使うと、角質層に水分を閉じ込められるので効果的。



② 清潔を保つ

顔に汚れなどが付いていたらきれいにふいて。お風呂ではごしごしこすらず、せっけんを泡立てて優しく洗います。

③ 刺激を少なくする

直接肌にふれる衣類は綿素材がお勧め。ポリエステルなどの合成繊維は静電気を起こしやすいため、皮膚を刺激してかゆみのもとに。



<保湿剤いろいろ>

○ヒルドイド
(モイストライザー)
保湿だけではなく、汗にも有効



○ワセリン
(エモリエント)
皮膚腺から分泌される脂が表面から蒸発するのを防ぐ

体の洗い方のポイント

体は、泡立てた刺激の少ない石鹸で、特に首・膝・肘・脇・手首大人の手を使って、しわを伸ばして洗いましょう。

「バンビ通信 No.15」に続き、昨年夏の全国病児保育研究大会で学んだことをまとめたものを中心に紹介させていただきました。

テーマ：

「子どもの将来のために行いたいスキンケア
～保湿剤の使い方を中心に～」

講師：田中裕也氏
(田中小児科・アレルギー科医院長)